

# ビブリオバトル高校生大会

2017年8月11日(金)〔山の日〕

「第3回ビブリオバトル高校生大会 in 小松」が小松市立図書館の視聴覚室で行われました。小松市内の高校3校より6名のバトルーが参加し、本校からはバトルー2名と、司会として2名が参加しました。



「ビブリオバトル」とは、“知的書評合戦”とも言われ、発表者がお薦めの本を紹介し、観戦者である聞き手にいかに読んでみたいと思ってもらえるかを競うものです。

〈本校出場者の「紹介した本」と「紹介内容」〉

○『ヤバい経済学』（スティーヴン・レヴィット著）

唯一、文学でないジャンルの本を紹介。

本書から、「選挙」に対する国民心理を解明したスイスの事例を紹介するなど、難しそうな経済学について、有効的な読み方を伝授。関連本『ヤバい統計学』から、テーマパークの「ファストパス」の有用性にも言及。ギャラリーの「読みたい」心に火をつけ、見事チャンプに！



○『居酒屋ぼったくり』（秋川滝美著）

人物の会話の内容やタイトル「ぼったくり」の由来をわかりやすく説明し、始終笑顔で、話しぶりは場面の画が浮かびそうなほど。

本書から、酒の銘柄についても触れ、大人が興味津津であった。



司会の2人も、台本通りいかない場合でも臨機応変に対応し、1年生とは思えないほど落ち着いた確な進行ぶりでした。

このような「自らの読書体験」を表現する機会を大切にしたいと思います。